

技術講座

心エコー図検査－その6

田口 大介

今回の講座から心疾患のエコー像として、まず『僧帽弁閉鎖不全症』を紹介します。

1) 僧帽弁閉鎖不全症は、最もよく診る心疾患である。その原因は種々考えられるが、犬では加齢に伴う弁の粘液腫変性による僧帽弁の逸脱や腱索断裂によるものが一般的である。

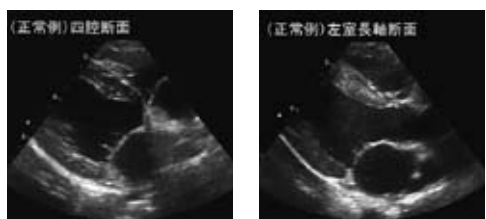
2) 僧帽弁閉鎖不全症の心エコー図検査の流れ
・僧帽弁の観察 ⇒ ・逆流の観察 ⇒
⇒ ・左房の観察 ⇒ ・左室の観察
今回の講座では、『僧帽弁の観察』を解説する。

①正常僧帽弁



図のように、四腔断面と左室長軸断面を用いて僧帽弁を観察する。

正常では、前尖および後尖の2枚の僧帽弁の接合部は、弁の基部同士を繋いだ線（模式図の破線）よりも左室側にある。

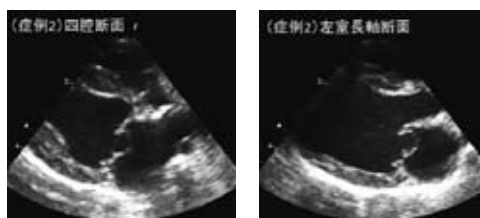
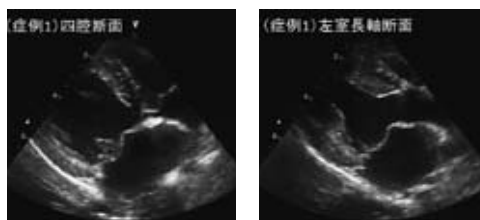


②僧帽弁逸脱



僧帽弁（主に前尖）および腱索の変性により、僧帽弁が左房側に逸脱する。その結果、弁の接合が悪くな

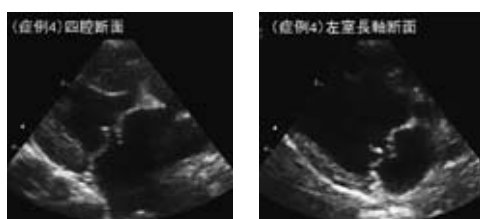
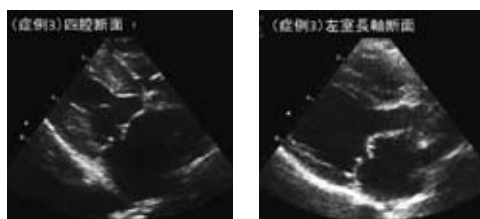
り逆流を生じる。



③腱索断裂



腱索が断裂することにより、僧帽弁（主に前尖）接合部が左房側に跳ね上がり、後尖との間に大きな間隙が生じ、著しい逆流が発生する。



次回は、カラードプラ法で僧帽弁逆流を観察します。